

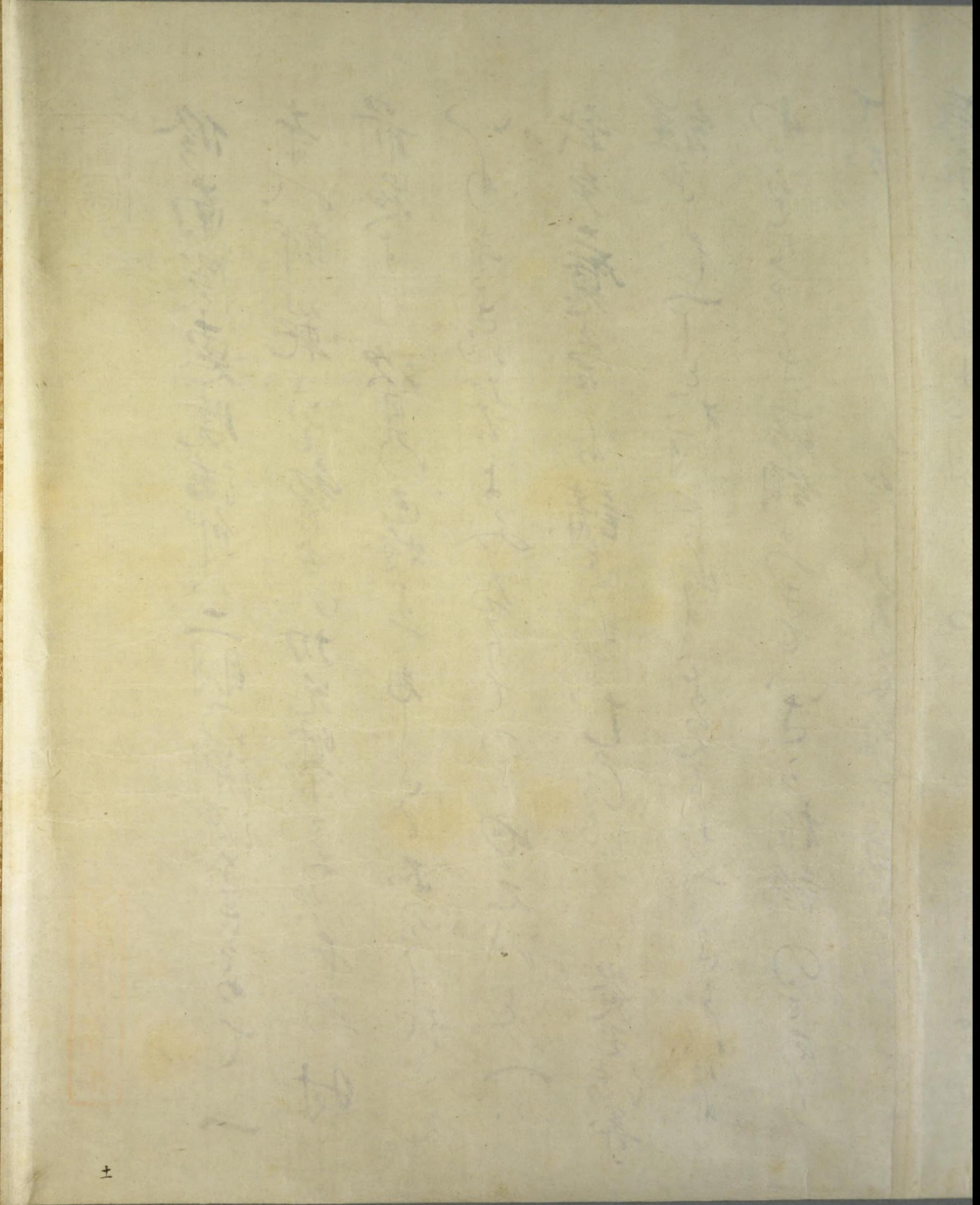
春日権現験記 20軸 WA31-13

11-001



国立国会図書館





WA 31  
13  
(11)

資料 6

土







修南院惠曉法師の二明乃淵源をききめて一  
 寺此師範の替古の切先賢の次ある時  
 前夜より次日の巳時を中夜とておのりて  
 いりさるるさぬなりよみかゝりてのち由元  
 我英魔言より請うねむるはたの炎王法華  
 経をむすべしとておのりてふたつとてふた  
 わりておのりてふたつとてふたつとてふた  
 てわいりておのりてふたつとてふたつとて

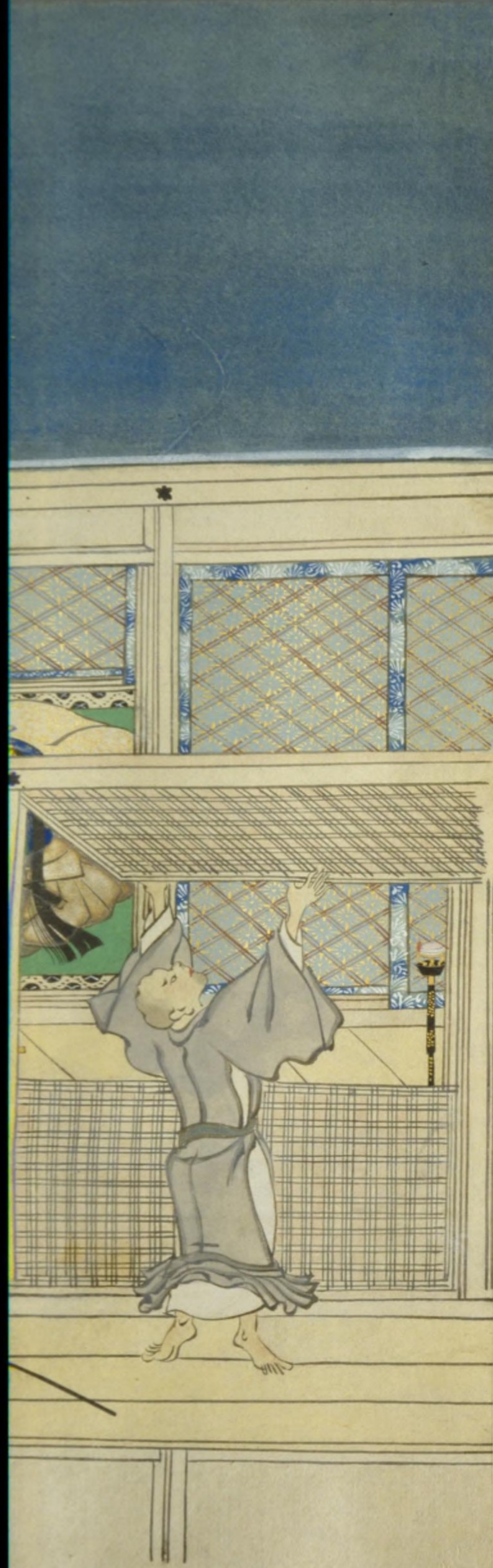
夢大明神に因らるるやうかしの権別堂なる



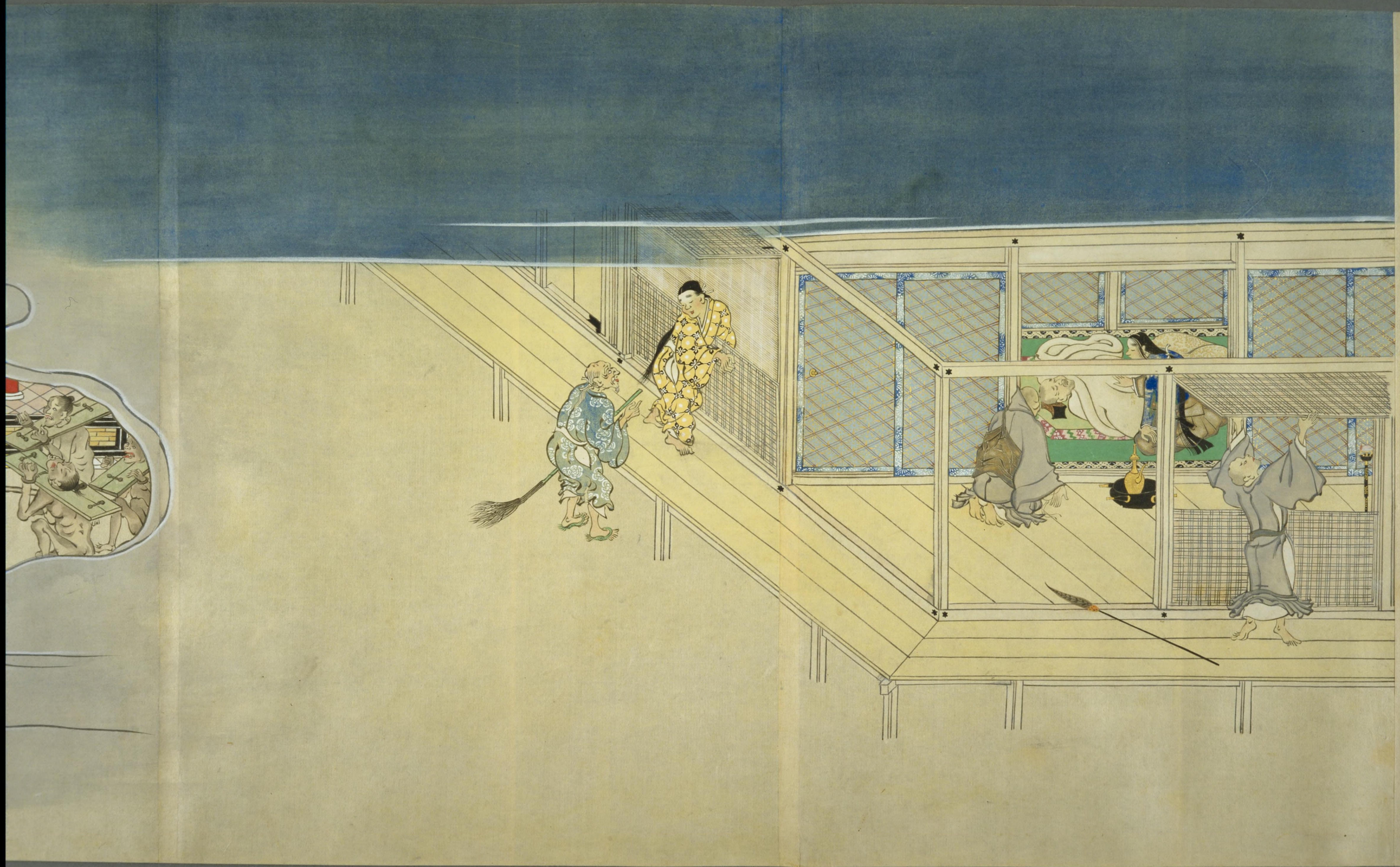




修南院惠曉法師の二明乃淵源をききめて一  
 寺七師範の替古の切先賢もあ次ある時  
 前夜より次日の巳時をてやとておのりてえ  
 いりてさ満なりよみぬりてのらゆえ誠とて  
 我英魔言より請うねむひたれ炎王法善  
 経をむしとて相をぬれとてえとてさしにり  
 わりてぬるとも所領よつきていさう相論のとあり  
 ておのりてぬれぬしりる離寺此思ありおのり  
 夢亦大明神に因をらうやむら推別堂よふ  
 してめしつとんと思ふたう廿年まゝりて離寺  
 せんともると承とみて後たくりの心紙あて  
 川井小権長守ふしとてにぬる



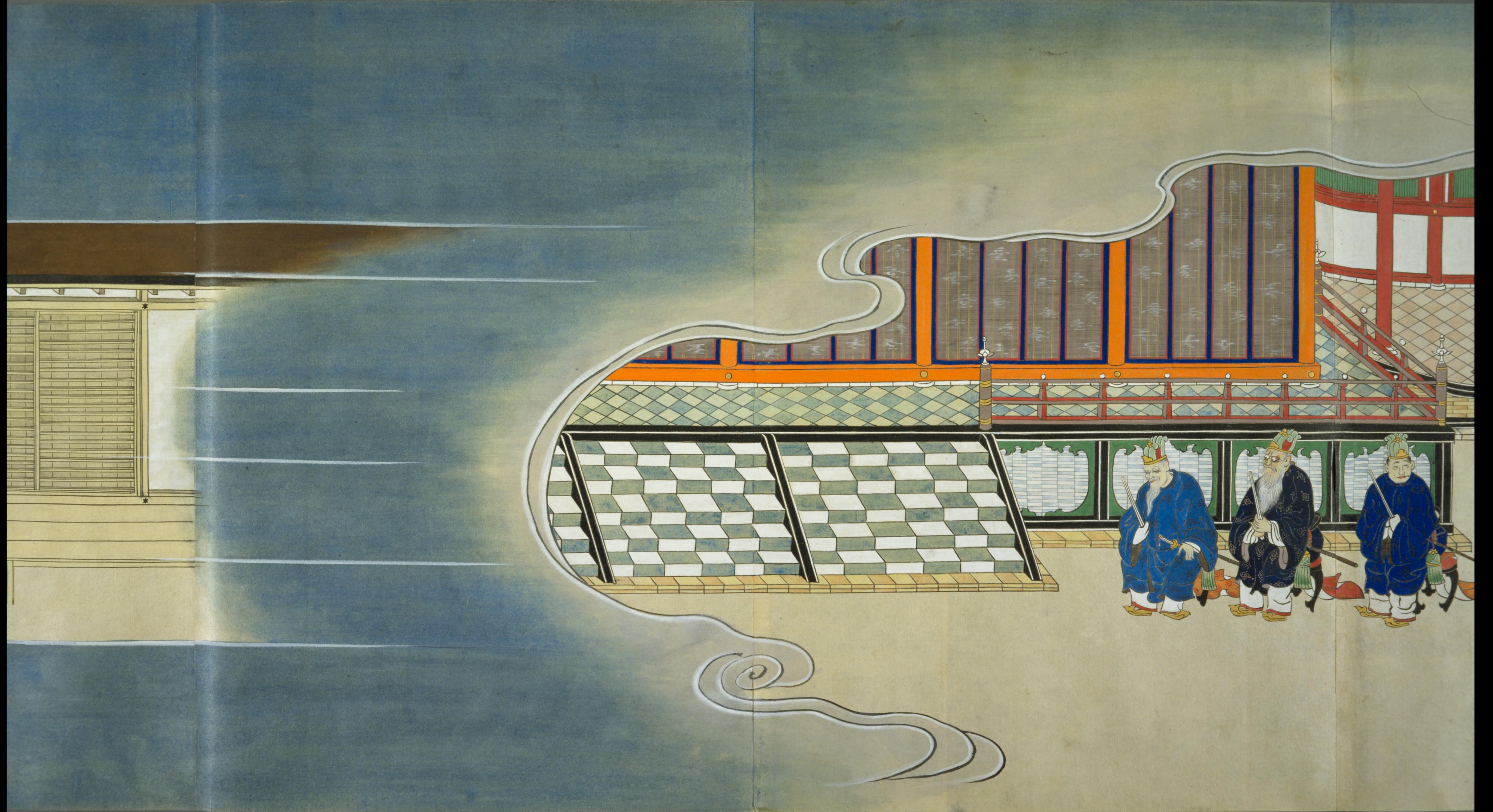






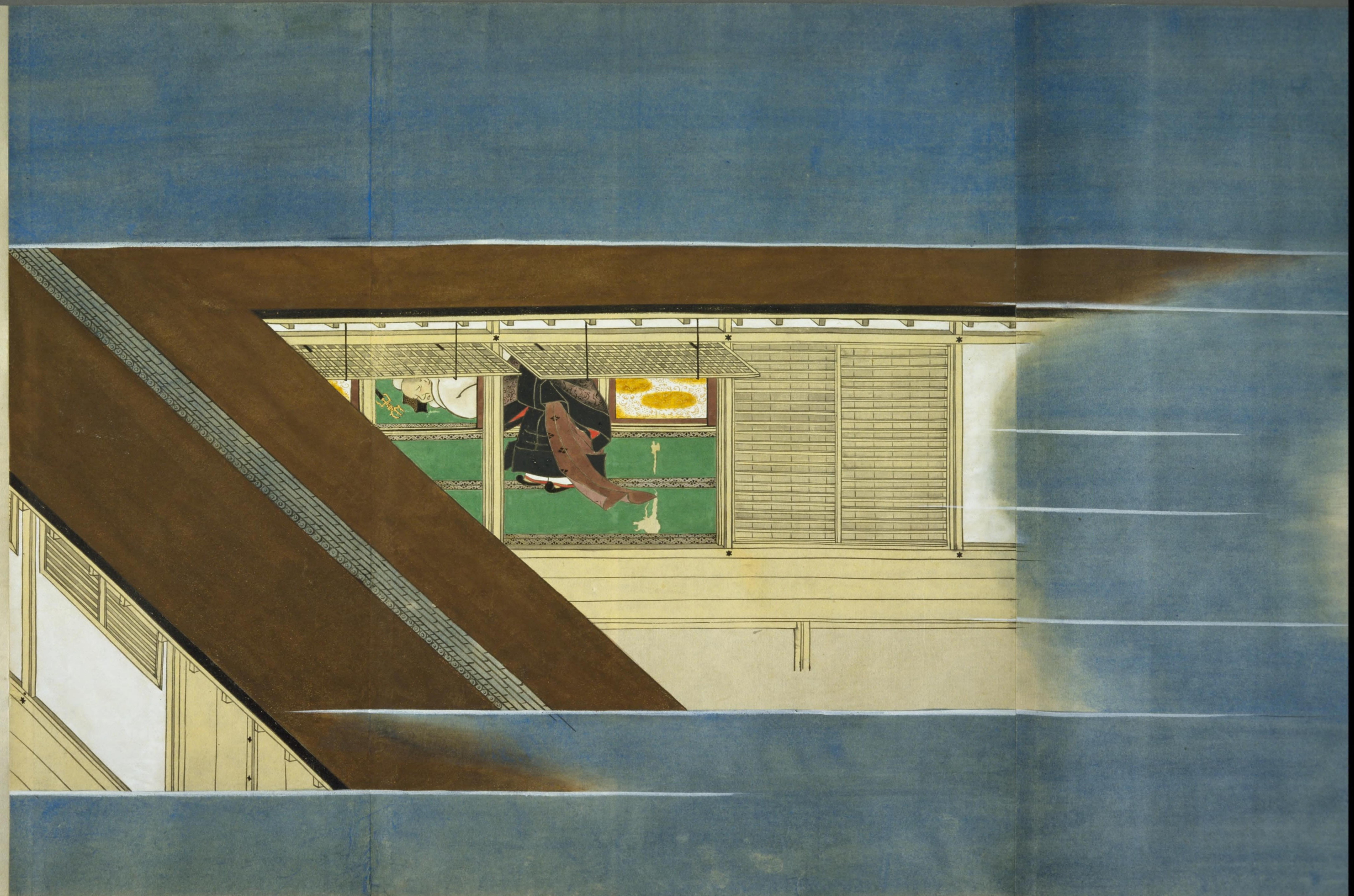








思乃同子鳥羽院の勅勘ふりて播磨國  
 東山此の書寫山末を見侍てとて  
 思知る事れ思あまりて大明神を勧請して





思乃同子鳥羽院の勅藝よりわて播磨國あふ  
 果あはれわ書寫山ふたえ侍とく一紙をくまはれも  
 思ひあはれ思あまりて大明神を勧請してて方  
 つりて海京の期とくうんと思て念をそまはれ  
 荒たわさせ給ぬも有験の禮を請ふやに月を  
 なく歎向をさせ給てふ十年ありて本尊の位  
 在處と仰らる御託宣のや随喜涙をさく  
 一もくしてあまありてゆきして維摩言の問  
 をつよなる自謙は句ふ

草庵結露而多日獨拾一粟之珠  
 松門埋煙步五廻還暗二期之月

ことなはられり連の聴聞のまもつらさをりく忠  
 意あひひりて涙をなりしなりそりけり





















永萬二季七月廿三日春日乃一鳥居此下一

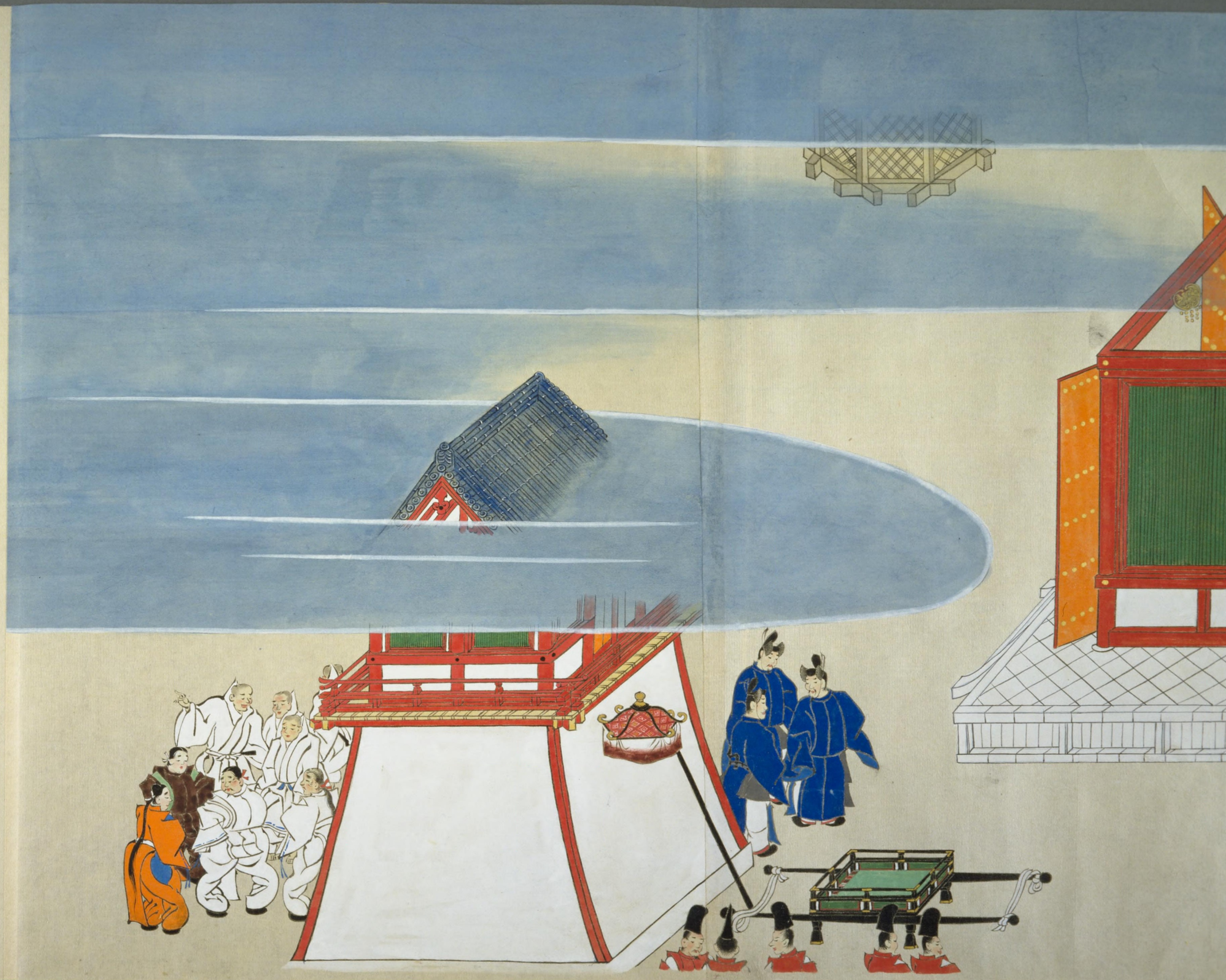
多に城として臺りおの状ふいせり

寺中乃大衆蜂起不知何事然嗣系諸所社

四羽乃寶屋此きとあり一各戸開とる内小

有人音而寶屋のうらりり云々後きて往南方

本宮の邊小山とありききとあり人阿り





永萬二年七月廿三日春日乃一鳥居此月一

多に試してをわわの状よ、やう

寺中乃大衆蜂起不知何事然嗣系諸所社

四刑乃寶為此きあう一云戸開くを内小

有人音而寶殿のうらり云後きて往南方

幸宮の邊小山とよ一まきあ人可り

人小誰人なりと二人答は及春日大明神を

還幸社仰むる此人也板本の御送り所

此とらを云得く本宮乃南より進取已方

を申をあはき櫛の枝を三宮とた回一ま

小く希有なり知き人二世成領てとら

寶殿よりあはれに候て所坐此と幾

所穿の人悲歎して本詠浪一或はさす

あついの夢中この成し五人自毛成家

波せ浪此奉る所自有悲邪明の昔有

を由何垣杖如件 廿二夜

善思

永萬二年七月廿三日

かつきしりあをま





尚  
 女  
 入  
 四  
 回  
 同

心  
 の  
 ち  
 り  
 の  
 ち  
 り





満寺の徒此東城が宇まで、月十九日、四月  
 廿日、小いさる月、十日乃あ、爰春日社布、て心  
 經幽替乃禮義、以て、唯淺論一  
 句、以講、の宗證義者、權僧正尋、能權、佛起、教  
 覺、權律師、全緣讀、師進、有、擬講、教、多、擬講  
 覺、兼、已、講、心、曉、已、講、常、縁、得、東、院、後、乃、東、院、記  
 名、頃、深、考、説、言、傳、光、初、慶、之、定、信、東、院、聖、躬  
 也、於、義、説、之、其、の、乃、廿、二、日、い、ま、り、て、井、院、住  
 侶、仰、交、の、爰、想、也、本人、記、さ、り、多、也、春日、廿、二、日、三、交  
 之、通、之、也、し、ま、し、ひ、そ、一、の、乃、廿、二、日、於、之、乃、あ、り、り、ま  
 形、形、境、務、并、也、つ、飛、為、也、み、ん、に、宗、業、乃、あ、り、  
 人、の、爰、あ、り、り、多、也、あ、り、り、多、也、宗、業、和、る、り、多、也  
 と、記、す







春日権現験記



